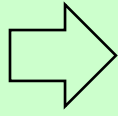


複合経営の見本となり、島内農業の維持と後継者育成を図る ～株式会社 J A ファーム佐渡～

経営体の概要

法人設立：平成24年
基幹作物：かき（柿）
経営面積：1.6ha



現在：令和3年
基幹作物：水稻（飼料用米、WCSを含む）、かき（柿）
アスパラガス、加工柿（あんぽ柿）
経営面積：42ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

国営かんがい排水事業により農業用水の安定供給や湛水被害の解消がなされるとともに、関連ほ場整備事業が推進されている。本法人は、農地の荒廃をなくすことを目的にJ A 出資型の農業生産法人として、平成24年に設立した。国営事業の用排水受益地の他、地域の農業者の高齢化や基盤整備が進んでいないことを原因として荒廃が進む条件不利地の営農を担っている。また、佐渡島特産おけさ柿の大規模経営に向けたスマート農業技術体系の導入実証を令和2年度から行っている。

営農改善のポイント

①担い手の育成・確保

農業の新たな担い手を育成することを重要な目標としており、国の青年就農給付金制度を活用して、これまで4名の研修生を受け入れ、3名が島内で就農している。また、柿の剪定作業について、スマート農機のスマートグラス※による遠隔での技術指導を後継者育成に活用している。

※ スマートグラスとは、メガネの形をした情報端末で、目の前の光景を遠くにいる熟練者（技術指導員）と共有できるもの。



担い手の育成（代かき作業）

②規模拡大

経営規模については、地域における高齢農業者のリタイアが続き、今後とも継続的な拡大が想定される状況となっており、さらなる集積への対応に向けて、新規参入者の技術習熟をスピードアップさせることや、柿のジョイント栽培※等の省力技術の導入に取り組んでいる。

※ ジョイント栽培とは、複数の樹を接ぎ木で連結し、直線状の集合樹とする果樹の仕立て法で、省力化等が期待される新技術。



柿のジョイント栽培

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：佐渡市
受益面積：3,396ha
事業期間：平成3年～平成25年
事業目的：用排水改良
主要工事：貯水池2箇所、頭首工1箇所、排水機場4箇所、用水路L=32.0km、排水路L=4.4km

位置図（新潟県）



佐渡地区

<問い合わせ先>

北陸農政局
農村振興部農地整備課
営農指導係
電話：076-232-4725

（令和3年度調査時点）